

Gikyohan Times

No.0012

GIKYOHAN TIMES

2021 年 5 月発行

教員免許更新講習「アクティブラーニング」講座

当社は岐阜県の全小中高校に教科書を供給し続けて 100 年以上の会社です。当社は岐阜県の全小中学校に「SCHOOL e-LIBRARY」進呈させて頂きました。電子図書によって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。各学校のログデータも毎月送る準備が整いましたので是非子供たちがどんな本を読んでいるか等ご参考して頂けたらと思います。購読リストに洋書を続々UPしています。(別添資料参照) 尚、商品の詳細情報は当社 HP (<http://www.gifukenkyohan.co.jp>) のバナーでご確認できます。岐阜県教販通信のバックナンバーも HP に記載しておりますのでご覧いただくと幸いです。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952 年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省 NO.1 の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

今年度に入っても、各地で緊急事態宣言だの「まん延防止等重点措置」だの、新型コロナをめぐって落ち着いた状況が続いている。学校現場でも、いろいろとご苦労が多いことだろう。

先日、そんな学校の最前線で働く先生方と議論する機会があった。長崎市の長崎純心大学で行われる教員免許更新講習「アクティブラーニング」講座である。ここ七、八年毎年担当しており、丸一日の講座で、年 2 回の開講に、それぞれ 50 人余りの参加者がある。残念ながら昨年はコロナで中止となり、今年も、参加者の集まる大学内会議室と東京の私とをオンラインで接続する形となった。

この講座では、講義に加え、参加者にグループに分かれて「熟議」を実践してもらってきた。熟議とは、「熟慮」と「議論」を併せた言葉であり、よく考え議論をすることにより、各自の思考を深めるとともに、参加する全員の多種多様な考えを共有するイベントである。何か結論や合意を目指すのではなく、さまざまな見方、考え方、感じ方があることを互いに知ることにある。

アクティブラーニングとか、「探究」とか、「主体的、対話的で深い学び」とかいうけれど、何より大切なのは<考える>ことと<議論する>ことだ。それこそがアクティブラーニングの【目的】なのであって、<調べる>ことや<発表する>ことは【手段】でしかない。子どもたちにとって、それこそが重要な体験なのだ。

それには、まず、先生方に「考え、議論する」経験をしてもらうことだ。いや、そんなのは職員室でいつもやっている、とおっしゃるかもしれない。職員会議、学年会議、部内会議…。でも、それらは仕事上の必要で行う議論だ。それに、先生方にとって日頃の思考範囲の域を出ていない。また、相手は毎日一緒に居る同僚で、よく知っている仲である。

そこで、この講座では日常とは離れたテーマを設定し、熟議という形で考え、議論してもらっている。「2050 年の長崎はどうなっているか？」さらには「22 世紀の長崎は？」といった具合だ。

グループで議論に加わるメンバーも、教師という職は多く共通しているが、現在勤務する校種は小中高等学校、特別支援学校、幼稚園、保育所、こども園と多岐にわたる。勤務地も都市部であったり、僻地、離島であったりする。また、専門学校や一般企業などに勤務して、免許を更新しておこうという方もいる。さらには、講習のアシスタントとして受講者のお手伝いをする学生も議論に参加する。それぞれが、けっこう多種多様な立場となるのだ。

おかげで毎年、活発な熟議になる。初対面同士で開始時は緊張感があるものの、1 時間半近い話し合いをしていると、後半は笑い声も起き、和気藹々の議論になっていく。

今年は、新しいテーマにした。【コロナ禍になって、今まで思いもよらなかったことについて考えたこと。その中でも、何か自分のプラスになったこと】さて、どんな議論になったか、次回にお伝えします。